

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101351		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームほのか		
所在地	沼津市大岡905-6		
自己評価作成日	令和3年9月24日	評価結果市町村受理日	令和3年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101351-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和3年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が事業所理念に基づいて、より良いケアができるよう取り組んでいます。コロナ禍の為、入居者様は面会禁止、外出制限等あり、少しでも楽しく過ごしていただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

勤続年数が長い職員が多く、職員が利用者に寄り添ってゆったりと介護をしているので、利用者も穏やかに過ごしている様子が伺われる。職員同士はコミュニケーションが取れ、リーダーやホーム長とも話がしやすい関係性を築いており、職員会議でも活発な意見交換を行っている。法人は研修に力を入れ、コロナ禍でも年間計画を立て、ZOOMで研修を行っている。食事は職員が持ち回りで献立を考え、食材はスーパーマーケットに配達してもらい、3食とも手作りをしている。行事食は利用者から食べたいものなどの希望を聞き取りながら作っている。法人は複数の事業所を運営しているのでホーム長は互いに意見交換や悩みの相談ができる体制であり、コロナ後には法人の車を利用して外出することを楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム入口に掲げて共有出来るように、又、意識付けるようにして入居者様対応にあたり、実践しています。	法人とホームの理念を玄関に掲げている。年2回の評価と個人面談の時に理念やスタンダードブックの内容を記入するテストを実施して職員の意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の班に入り、回覧板で情報共有しています。地域で行われる防災訓練やお祭り等があれば参加していきます。	コロナ以前は近くの公園で行われていた祭りへ出店をしたり、地域の防災訓練や清掃活動に職員が参加していた。地域の高校生や幼稚園児との交流などもあり、散歩の途中で出会う近所の人に挨拶をする関係性も築いていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一回の割合で運営推進会議を書面にて開催し地域の方に送付しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面にて開催し、ホームの現状を報告し、そこでの意見をサービス向上につなげていきます。	今年度は書面開催で、開催前に全家族に意見を聞き、その後議事録を送付している。自治会長や近所の住民、地域包括支援センターや市の担当課職員にも議事録を届けている。コロナ後はより多くの参加者を募り意見交換が出来るよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で書面で地域包括や市の介護相談員に連絡している。介護福祉課等、書面提出時や訪問調査時にお話の機会を作っています。	運営推進会議の議事録や事故報告書は直接出向いて手渡し、助言を得ている。地域包括支援センターとは電話で連絡し、連携をとっている。介護相談員がコロナ禍でも1か月に1度訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を掲げており、共有しながら、またホーム内でも研修、勉強会を実施しており職員に周知徹底している。	指針は整備され、委員会はリーダーとホーム長が参加して年に3回行われている。その中で研修内容の検討や事例検討をしている。研修は法人のZOOM研修を含め年に4回行っている。直近の研修ではホーム内で困っていることを話し合う予定である。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での研修を行っています。虐待が疑われるような行為があればすぐに話し合い、職員間でも注意できるように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会があれば参加し、理解を深めるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明しています。不安や疑問点があれば話し合い理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族からいただいた意見、要望は議事録にのせています。	写真付きのお便りを毎月家族に郵送し、それ以外の連絡については、その都度電話で行っている。運営推進会議の案内時には毎回、家族からの意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で意見や提案を聞く場を設け反映させています。	毎月1回ほぼ全職員が参加して19:00から1時間か1.5時間くらいで研修を含め会議を行っている。参加できない職員の意見は事前に取りまとめ、会議での提案などは運営に反映できるようにしている。年に2回ホーム長、ホーム長とリーダーで職員の個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を行っており、職員の自己評価、管理者の評価後面談をしている。資格などを取ることで給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのための研修を推奨している。法人内でリモート研修を行いそれを持ち帰りホーム内で勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム北部連絡協議会に参加しており、他施設の管理者、ケアマネと交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の今までの生活歴を把握しできるだけ穏やかに過ごしていけるように職員全員で努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望による施設での生活を聞き、サービス計画に取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり入居者様を知り対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできること以外に職員は、できるかもしれないことを探し支援を見極めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の月の便りには入居者様の施設での生活が分かるように職員が記入している。また、サービス計画書については作成時の説明、署名様印をしていただき来所の困難なご家族様には郵送をして印をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍になり面会が出来ない状態、可能な方は電話での通話や窓越しでお会いしていただいている。	家族の要望でリハビリの様子を玄関から見てもらったり、窓越し面会を行っている。LINEで動画を見てもらうなどの工夫もしている。介護相談員は継続して来所しているので馴染みの関係が築けており、親しく話をするなどのつながりを大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルに同席している方々は思い思いの会話をされている。互いに傾聴し同意されている。励ましている様子がうかがえる。職員は、仲たがlish そうな場面では仲介に入ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去、亡くなられた方のご家族とのその後の接点はあまりない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居者様との交流を図り、傾聴する中でご本人の思い、意向の把握に努めている。またそれが困難な方については会議で話し合っている。	利用者には居室の担当者が主に支援している。ベテランの職員が多く、利用者に寄り添って傾聴ができているが、時と場合によっては不適切な言葉遣いが散見されることもあり、職員同士で都度注意を行っている。	職員の異動や欠勤で報・連・相がスムーズにいかず情報共有がうまくできなかったことがあったので、対策を立てられるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人よりお話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の毎日の様子を職員が申し送りすることで情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でケアについてモニタリングを行い話し合い、計画書の作成、見直しに携わっている。	職員会議で担当の職員を中心に利用者全員のモニタリングをしている。11月から新しい書式のモニタリング表、介護計画書を使用する予定である。データはタブレットと紙の使いやすい方を利用して収集している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子、体調に変化があった場合は職員間で情報を共有し、ケアプランに変更の出る場合は検討しご家族に説明し了解をいただいている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の変化については、職員で把握し対応に努めている。体調の変化については、主治医に上申し指示を仰いでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺は住宅地にて近隣の方には挨拶やコミュニケーションを図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による往診が月に2回あり、薬剤師も同席し報告、相談に応じて下さっている。体調により24時間連絡が可能で指示を頂くことが可能	1名は以前からのかかりつけ医の往診を受け、それ以外の利用者は協力医の往診を受けている。往診時には薬剤師も立ち会い、他科の初期対応や専門医の紹介も行ってくれ24時間対応してくれる。訪問看護師も週に1回来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所され入居者様方の体調管理をして下さる。看護師による職員への指導や主治医への連絡をして頂ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院に関しては、ご家族の対応だが病院側とも連絡を取り見舞うことがある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時にご家族へは重度化、終末期に対してのお話は伺っているが終末期にはご家族の意向を考えながらできる限りのケアに努めている。また主治医によりご家族への連絡や看取りの際の計画書作成、説明、印を頂いている。	入居時に重度化や終末期についての方針を説明し、同意を得ている。状態変化時には、医師が家族に状態を説明し、管理者は家族の意向を再度聞き、終末期の支援を行っている。看取りの研修は年に1回行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内に事故防止対策委員会設置しており定期的に勉強会を開催し指示や対応について話し合っている。		

静岡県()

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームの裏にある川が増水してベランダあたりまで上がってきた場合1F入居者様を2Fに避難する訓練をした。年2回訓練行っています。	年に2回防災訓練を実施している。裏にある小川が増水し、あふれた水が事業所に入ってきた事があったので今年の5月には垂直避難を行った。11月には火災想定での避難を行う予定である。備蓄はリストで管理している。	夜間、季節想定訓練は不足しているようです。連絡網は作成してあるので実際の訓練を行い、長期停電の備えは法人と相談して取り組めるよう希望します。コロナ後の地域連携に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その都度声のトーンを変えたり声掛けの内容、実際に行く場所をそのまま伝えるのではなく工夫して、時にはスタッフ交代しながら対応させていただいています。	利用者の話を聞いたり、声を拾うことは常日頃から行うように職員に促している。利用者の対応は偏らないように職員が多角的に接するように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意志や意見を表現できない方が多いが話しかけや日常の対応の中でその方の心を読み取るよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われることもあるができる限り一日の様子その時の様子を見守りご本人様のペースに合わせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族の方に持ってきていただき季節に合わせて服装をして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理は認知症状低下などにより一緒に行くことはできないためかたづけをして頂いています。	献立は利用者の希望を聞き、職員が考え調理をしている。食材は肉や魚、野菜等偏らないように注文し配達してもらっている。利用者には食器洗いや食器ふき等主に片付けを手伝ってもらっている。誕生会や季節の行事には利用者の好きな寿司等を取入れ食の楽しみを増やす工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量、水分量の記録、朝、昼、夕の記録を取り栄養バランスが偏らないよう職員一人一人が工夫しています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。通常の歯ブラシ口腔スポンジ口腔テッシュ灘で口腔内の状態により使い分けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の状態に合わせ声掛けをしてできる限りトイレにて排泄できるように対応している。	排泄の記録はタブレット入力をしている。日中のトイレ誘導はパターンを見て声かけをし、夜間もできるだけトイレで排泄してもらえるように見守っている。排便は記録を取り、ヨーグルトを頻繁に食べてもらうようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などで身体を動かしたるべく薬にはたよらないようにと働きかけているが難しい、ヨーグルト、牛乳などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、午前、午後になっている。ご自分からは今入りたい等の希望する方はいない。入浴を拒否する方もいますが声掛けに工夫したりして入って頂いている。	基本的に週に2回、午前中に2人、午後1人入浴支援を行っている。2人介助の利用者にも職員を調整するなど個別支援をしている。入浴剤を好む利用者には使用したり、その日の体調によってシャワー浴にする等柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後の臥床や居室の清掃、室温調整の実施、夜間帯での一人一人の状態の報告		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の往診時、入居者様の様子を伝え定期薬、頓服の見直しをした。薬剤師も同席しているので薬の内容も細かく職員に指示していただける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護度により難しいが側で手を添えたり話し相手になることで支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍なので現在は入居者様は外出制限ありできていないが本人様の要望等あれば対応していきたい。	コロナ禍で外出制限があり、外気に触れる機会が少なかったが、下肢筋力の低下を防ぐため施設の建物内が回廊式になっているので歩いたり、屋内での運動を中心に行っている。コロナ後は利用者の希望を聞いて外出支援を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ほぼご本人様難しく、ご家族様から預り金を保管し実用に応じて使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月状況が伝わるようにお便りとして様子を記入した手紙をご家族様に出している。面会制限あるため、電話での対応できる方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の移動に危険のないようにフロア、廊下は整理している。居間は、ご家族が整理して下さったり入居者様の落ち着ける雰囲気を手伝っている。	主に清掃を担当する職員が月、火、木、金に出勤し念入りに掃除機をかけているため、玄関や居間、台所、廊下、浴室とも清掃が行き届いている。掲示物はすっきり貼られていて、書類もまとめられ清潔な環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは、食事をしたり、テレビを見たりして過ごされるが入居者様は休みたいときは、ご自分の居室へ行かれる。フロアの座席は決まっているが移動することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族により使い慣れたものも出簡単に必要最低限に準備されている等、様々です。その中でスタッフが工夫している。	天井まである備え付けのクローゼットには季節の布団や衣類、リハビリパンツ等が収納してある。馴染みのある持参したタンスや衣類ケースは利用者が使いやすい位置に配置され、部屋は広さもあり、整理整頓されていて、すっきりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今までの暮らしと違う生活をするのでご自分の居室からトイレ等の共有空間への動線をわかりやすくなっているが慣れて頂くようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101351		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームほのか		
所在地	沼津市大岡905-6		
自己評価作成日	令和3年9月24日	評価結果市町村受理日	令和3年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101351-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和3年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が事業所理念に基づいて、より良いケアができるよう取り組んでいます。コロナ禍の為、入居者様は面会禁止、外出制限等あり、少しでも楽しく過ごしていただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム入口に掲げて共有出来るように、又、意識付けるようにして入居者様対応にあたり、実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の班に入り、回覧板で情報共有しています。地域で行われる防災訓練やお祭り等があれば参加していきます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一回の割合で運営推進会議を書面にて開催し地域の方に送付しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面にて開催し、ホームの現状を報告し、そこでの意見をサービス向上につなげていきます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で書面で地域包括や市の介護相談員に連絡している。介護福祉課等、書面提出時や訪問調査時にお話の機会を作っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を掲げており、共有しながら、またホーム内でも研修、勉強会を実施しており職員に周知徹底している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム内での研修を行っています。虐待が疑われるような行為があればすぐに話し合い、職員間でも注意できるように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会があれば参加し、理解を深めるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明しています。不安や疑問点があれば話し合い理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族からいただいた意見、要望は議事録にのせています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で意見や提案を聞く場を設け反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を行っており、職員の自己評価、管理者の評価後面談をしている。資格などを取ることで給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのための研修を推奨している。法人内でリモート研修を行いそれを持ち帰りホーム内で勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム北部連絡協議会に参加しており、他施設の管理者、ケアマネと交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の今までの生活歴を把握しできるだけ穏やかに過ごしていけるように職員全員で努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望による施設での生活を聞き、サービス計画に取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり入居者様を知り対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできること以外に職員は、できるかもしれないことを探し支援を見極めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の月の便りには入居者様の施設での生活が分かるように職員が記入している。また、サービス計画書については作成時の説明、署名様印をしていただき来所の困難なご家族様には郵送をして印をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍になり面会が出来ない状態、可能な方は電話での通話や窓越しでお会いしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルに同席している方々は思い思いの会話をされている。互いに傾聴し同意されている。励ましている様子がうかがえる。職員は、仲たがlish そうな場面では仲介に入ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去、亡くなられた方のご家族とのその後の接点はあまりない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居者様との交流を図り、傾聴する中でご本人の思い、意向の把握に努めている。またそれが困難な方については会議で話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人よりお話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の毎日の様子を職員が申し送りすることで情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でケアについてモニタリングを行い話し合い、計画書の作成、見直しに携わっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子、体調に変化があった場合は職員間で情報を共有し、ケアプランに変更の出る場合は検討しご家族に説明し了解をいただいている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の変化については、職員で把握し対応に努めている。体調の変化については、主治医に上申し指示を仰いでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺は住宅地にて近隣の方には挨拶やコミュニケーションを図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による往診が月に2回あり、薬剤師も同席し報告、相談に応じて下さっている。体調により24時間連絡が可能で指示を頂くことが可能		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所され入居者様方の体調管理をして下さる。看護師による職員への指導や主治医への連絡をして頂ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院に関しては、ご家族の対応だが病院側とも連絡を取り見舞うことがある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時にご家族へは重度化、終末期に対してのお話は伺っているが終末期にはご家族の意向を考えながらできる限りのケアに努めている。また主治医によりご家族への連絡や看取りの際の計画書作成、説明、印を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内に事故防止対策委員会設置しており定期的に勉強会を開催し指示や対応について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームの裏にある川が増水してベランダあたりまで上がってきた場合1F入居者様を2Fに避難する訓練をした。年2回訓練行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その都度声のトーンを変えたり声掛けの内容、実際に行く場所をそのまま伝えるのではなく工夫して、時にはスタッフ交代しながら対応させていただいています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意志や意見を表現できない方が多いが話しかけや日常の対応の中でその方の心を読み取るよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われることもあるができる限り一日の様子その時の様子を見守りご本人様のペースに合わせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族の方に持ってきていただき季節に合わせた服装をして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理は認知症状低下などにより一緒に行くことはできないためかたづけをして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量、水分量の記録、朝、昼、夕の記録を取り栄養バランスが偏らないよう職員一人一人が工夫しています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。通常の歯ブラシ口腔スポンジ口腔テッシュ灘で口腔内の状態により使い分けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の状態に合わせ声掛けをしてできる限りトイレにて排泄できるように対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などで身体を動かしたるべく薬にはたよらないようにと働きかけているが難しい、ヨーグルト、牛乳などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、午前、午後になっている。ご自分からは今入りたい等の希望する方はいない。入浴を拒否する方もいますが声掛けに工夫したりして入って頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後の臥床や居室の清掃、室温調整の実施、夜間帯での一人一人の状態の報告		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の往診時、入居者様の様子を伝え定期薬、頓服の見直しをした。薬剤師も同席しているので薬の内容も細かく職員に指示していただける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護度により難しいが側で手を添えたり話し相手になることで支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍なので現在は入居者様は外出制限ありできていないが本人様の要望等あれば対応していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ほぼご本人様難しく、ご家族様から預り金を保管し実用に応じて使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月状況が伝わるようにお便りとして様子を記入した手紙をご家族様に出している。面会制限あるため、電話での対応できる方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の移動に危険のないようにフロア、廊下は整理している。居室は、ご家族が整理して下さったり入居者様の落ち着ける雰囲気を手伝っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは、食事をしたり、テレビを見たりして過ごされるが入居者様は休みたいときは、ご自分の居室へ行かれる。フロアの座席は決まっているが移動することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族により使い慣れたのも出簡単に必要最低限に準備されている等、様々です。その中でスタッフが工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今までの暮らしと違う生活をするのでご自分の居室からトイレ等の共有空間への動線をわかりやすくなっているが慣れて頂くようにしている。		